ワールドデータ

WORLD DATA

COLUMU

"ナポレオンの夢"

英仏海底トンネル

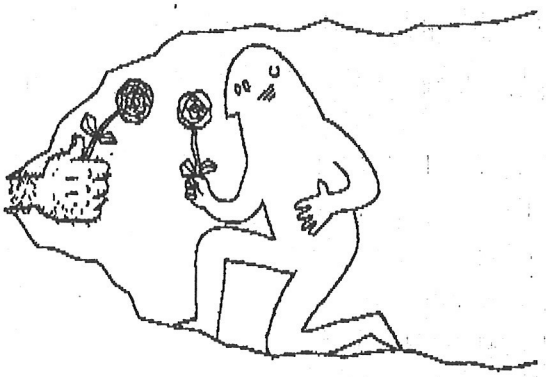
90年の12月1日，ドーバー海峡をくぐって英国とフランスを結ぶ「英仏海底トンネル」が貫通した。歴史的になにかと欧州大陸との違いを強調してきた英国も，これで大陸と地続きになったわけで，英国が欧州に引き寄せられたという感がしないでもない。

ベルリンの壁が取り除かれ，統一ドイツが誕生した裏には，経済不振にますます苦しむ東欧，ソ連が欧州の傘の下に入るしか，その活路を見出せなかったという事情がある。欧州はそれに乗じて，東欧・ソ連市場を飲み込もうとしている。英国の場合も，それとよく似たところがあり，欧州との連携，合体をより鮮明にしていくしか英国の未来はないといえるのである。

だから，独自路線を主張し，欧州と一線を画すことを掲げてきたサッチャー首相の辞任に合わせるかのように，このトンネルが貫通したことは決して偶然ではないのかも知れない。92年のEC統合で盛り上がる欧州は，東に位置するソ連と東欧を，西に位置する英国を，あたかも両手に花のごとく抱き寄せることになった。「大欧州の時代」が来るといわれるのも，そうしたことからであろう。

31マイル――英仏トンネルの長さである。これは世界で二番目に長い鉄道トンネルだ。一番はといえば，同じく海底トンネルである日本の青函トンネルの33.5マイルである。三番目はやはり日本の大清水トンネルで，四番目がスイスとイタリアの国境にあるシンプソントンネル，五番目が関門トンネルとなっている。

世界の五大トンネルのうち三つを日本が占めており，日本はトンネルを掘るのがお家芸の国なのだ。英仏海底トンネルの掘削でも，日本から輸入されたシールド工法のトンネル掘削機が活躍。この技術では日本は他の追随を許さないといってもいい。日本の技術が使われなければ，ナポレオンの夢であったといわれる欧州大陸と英国のドッキングは不可能であったかも知れない。



Illustrated by R. Watanabe

日本は，そればかりでなく，約1兆9000億円といわれるこのトンネルの建設資金のかなりの部分も提供した。陰の立役者は日本であったといっても過言ではない。

世界の地図を広げてみると，もし，日本と韓国をはさむ対馬海峡に海底トンネルが掘られれば，ユーラシア大陸の両翼にある日本と英国が地続きとなり，クルマでロンドンまでいけることになる。せっかく日本に十分な技術と資金があるのだから，次は「日韓海底トンネル」の実現へと動き出して欲しいものだ。

日本に"ナポレオン"はいないのだろうか？　（J）